

三鷹市立東台小学校 令和5年度【算数科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が考えを表現する場が少ない。 ○見直しの方法や重要性を説いていない。また、考えをし直すためのしつけが十分ではない。 ○話し合いの方法を明確にしている。 ○共有、話し合いをすることによって、考えを深めることの良さを実感させられていない。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業でただ答えを聞くのではなく、考えを説明するための発問を増やす。 ○話し合いの方法を明確にし、考えを深めることがわかるように具体的に指導していく。 ○共有する場面を増やし、学び合いの活動を増やしていく。 	<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを積極的に発言する児童が多くみられる。 ○10までの数で行う加法、減法の計算において知識・技能の十分な定着がみられる。 ○図やブロックを用いて、自分の考えを伝える良きを感じることができている。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノートに自分の考えを書く活動では、表現する力に大きな個人差がある。 ○自分と異なる意見を受け入れたり、一つの問題を多角的に考えたりすることができていない。 	<p>〔指導方法の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題の提示や活動の指示が不明確であったり、工夫が足りていなかったりする。 ○友達と考えを共有して考える良きを感じさせることができている。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の生活場面から問題を考えたり、具体物を提示したりすることで問題提示の工夫をする。 ○板書を工夫し、児童が見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。 ○ペアワークやグループワークを行い、考えを共有する活動の時間を確保する。
第2学年	<p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の考えを共有したり、問題解決をした時間を十分に確保した後、改めてじっくり自身の考えについて思考し直す時間が足りない。 ○問題提示の工夫の中で、文章から問題場面を捉えにくくなるような文章問題に関する教材研究をしていく必要がある。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題場面、問題提示の工夫の仕方に偏りが出ないように絵や図を活用したり、条件過多や条件不足を取り入れたり、文章問題を精選したりしながら授業作りをしていく。 ○家庭で学びを深めたいくなるような授業展開を作り、学校と家庭の学びを繋ぐことができるようにする。 ○見つけた決まりや方法がほかの問題でも活用できるか考える機会を増やす。 	<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出された課題を解決することを楽しんでいる児童が多くみられる。 ○ドリル式学習のような知識・技能を求められる問題を解くことに意欲的に取り組むことができる。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の基本的な足引きの計算処理能力に偏りがある。 ○一つの解法を見付けて満足し、問題を多面的な視点でとらえることができていない。 ○直感でなく、数の大小の関係を捉えられていない。 	<p>〔指導方法の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な解法が出るような問題提示の仕方や教材準備ができていないことがある。 ○思考力を高める授業を重点として、授業を展開しているため、解く問題数が少ない。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題場面、問題提示の工夫の仕方に偏りが出ないように絵や図を活用したり、条件過多や条件不足を取り入れたり、文章問題を精選したりしながら授業作りをしていく。 ○タブレットを活用し、家庭で学びを深めたいくなるような課題を作り、学校と家庭の学びを繋ぐことができるようにする。
第3学年	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を把握する力が伸びた。 ○言葉の式や図に表し、わかりやすく説明できる児童が増えた。 ○意見を共有したり、集団検討したりする時間があり作れなかった。また、それだけでは、個別対応が必要な児童にサポートしきれないところがあった。 	<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かけ算とわり算の学習では、問題の考え方を聞いた時に、ノートに絵や図をかいて説明することができる児童が多くなってきた。 ○発表の場面で、自分の考えを意欲的に伝えることができている。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章問題の時にじっくり読めておらず、立式や答えの単位を間違えてしまう。見直しも疎かになっている。 ○自分以外の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を見つけることに課題があるように見受けられる。 	<p>〔指導方法の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題を扱うときに単位の必要感について実感させられていない。 ○自分以外の人の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を見付けることができる機会が少ない。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題提示の際には文章問題の単位を囲んだり色を付けたりして、注目させ、答えがあっているのか見直しをする習慣を付けさせる。 ○他者の発言を聞いた後の学習活動をあらかじめ設定し、「聞く」ことの動機付けを図る。
第4学年	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と話し合い、考えを共有することで理解が進んだり、考えが広がったりした。 ○自主的に復習をする児童もおり、理解が深まった。 ○自主的に振り返ったり、宿題を取り組んだりすることができない児童に対する支援が行き届かないため、授業時間の中で学習の定着をより強く固めていく必要がある。 	<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○垂直・平行と四角形では、学習したことを生かして、身の回りのもので垂直や平行のものを探してとるというように積極的に生活と結びつける児童の姿が見られた。 ○発表の場面で、自分の考えを意欲的に伝えることができている。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項の定着に差がある。 ○自分以外の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を見つけることに課題があるように見受けられる。 	<p>〔指導方法の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項が定着していない児童への支援が十分にできていない。 ○自分以外の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を見付けようとする児童が少ない。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項の定着に差があるため、授業の導入部分や適用問題を解く際に、大事なポイントを全体で確認したり、机間指導で個別に確認したりする。 ○わからないことをそのまませず、家庭学習でも練習したり、自主学習で復習したりするよう促す。学校で使ったプリントやテストも活用させる。
第5学年	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞いていることは何か、答えることは何かを教科書に線を引いたり、板書でみんなと共有したりすることで課題を把握する力が伸びた。 ○問題を見てもすぐに立式はできるが、なぜその式になったのか根拠を問う言葉で説明することができない児童がいる。 ○自分の意見をもつことができても、不安感からか全体に発表できない児童がいる。 ○これまで以上に言ってきたものが定着していない児童があり、習熟に差がある。 	<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章問題を絵や表、線分図で考えて立式することができる児童が増えた。 ○自分の考えをもち、進んで発表する児童は一部である。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題を見てもすぐに立式はできるが、なぜその式になったのか根拠を問う言葉で説明することができない児童がいる。 ○自分の意見をもつことができても、不安感からか全体に発表できない児童がいる。 ○これまで以上に言ってきたものが定着していない児童があり、習熟に差がある。 	<p>〔指導方法の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○立式の根拠を問う言葉で説明することができない児童への支援が十分にできていない。 ○既習事項が定着していない児童への支援が十分にできていない。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループで立式の根拠を問う言葉で説明する時間を設定し、自分で書くことができなくなった児童も友達の考えを参考にできるようにする。 ○問題文の意味をしっかりと読み、見直しの時間を取ることで繰り返し読み直したり計算の確認をさせたりする。
第6学年	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図、式、言葉を活用することや、互いの考えを読み合うことを大切にできたことで、思考力や表現力の伸長が見られた。 ○児童数が多いため、小人数にならないコースもあり、理解度に差がある。 	<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査の結果での正答率は67%であり、全国正答率より3%ほど低い。 ○知識・技能の問題は解けても、思考力を問われるような問題でも正答率が低くなる。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもち、発表する児童は一部である。 ○学力の差が大きく、既習事項の定着ができていない児童は、自力解決の際に手が止まってしまう。 	<p>〔指導方法の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的な考え方を示すよさを児童に感じさせることに不足がある。 <p>〔授業改善策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な考えが授業で出るように意識し、児童がいろいろな解法を見つけていくことができる環境をつくる。 ○各領域や学年での学習内容を整理し、既習事項が生かせるような授業づくりをする。